


# 代表質問の要旨

※本文は質問者自身の原稿によるものです

会 派 名  
 明 政 会  
 新 政 会  
 市民派連合  
 公 明 党  
 市政同志会  
 和 の 会  
 日本共産党

**明 政 会**  
 質問者 五味 東條  
 森川 雄三・塩原 政治  
 西條 富雄・宮田 伸子  
 持ち時間150分

**ごみ処理  
 広域化  
 検証**



◆松本クリーンセンターに搬入される塩尻のごみの量は、構成市村の人口で除した一人一日当たりの平均可燃ごみの量が、共同処理により1・01kgから0・92kgに減少したことは塩尻のごみ量は少ないと理解してよいか。

**問** 塩尻の一人一日当たりの可燃ごみの量は0・65kgであり、松本クリーンセンター管内の平均値を大きく下回っている。

**問** ごみの搬入量によって、松本クリーンセンターの負担金、分担金が異なると聞いているがどうか。

**答** 家庭や事業所がそれぞれ可燃ごみを減らすことは、本市が負担する分担金も少なくなり、財政的観点からも重要

と考える。塩尻市の燃えるごみの量を5%削減され、他市村が増減ないと仮定して、概ね800万円程度減額となる。

**問** 更なるごみ減量の方針は。

**答** 「食べ残しをしない運動」「もったいない運動」「レジ袋をもらわない運動」を三ない運動として進めていく。

◆人口減少時代の対応

**問** どんな街づくりを行うか。

**答** 第四次総合計画基本計画で「住みよいまちをつくり人口誘導をはかります」とする施策のもと、誰もが住みたい住み続けたい、魅力溢れるまちづくりを進めてきている。

**問** 中心市街地の大門地区にコンパクトシティの街づくりを試み、またまった投資をしたが、活性化できたか。

**答** 市民交流センターは毎月4万5千人から、多い月で6万人と予想を上回る多くの方がご利用され、今年3月30日100万人を突破した。

ウイングロード前交差点の通行量調査では、平成21年度約1千300人であったのに対し、22年度は1千800人余、23年度は2千200人余、24年度が2千700人余と年々増加傾向である。

**問** 街なかの回遊性や人口減に歯止めがかかったか。



柿沢市有地のぶどう園

**答** 根本的な解決を図るまでには至っていないが、研究を重ね対策や支援策を講じていく。

◆マレットゴルフ場整備

**問** 代替地として、小坂田公園にマレットゴルフ場を計画して補正予算を上程しているが、立派な格調高い、マレットゴルフ場を整備してもらいたい。

**答** マレットゴルフ場の整備は、マレットゴルフ協会の皆さんのノウハウを生かして、利用される皆さんと協議を重ねながら、設計していく。

**問** 小坂田公園の活性化は。

**答** マレットゴルフ場の整備により小坂田公園利用者が増加し、小坂田公園の活性化にも繋がっていくと信じている。

◆社会福祉センターの今後

**問** 重油漏れの対策費としていくら税金が使われたか。